

町田市バイオエネルギーセンター運営協議会（第9回）

議事要録

- 日時 2025年8月20日（水）14時00分～16時00分
- 場所 町田市バイオエネルギーセンター 管理棟3階会議室
- 出席 委員：高橋会長（もみじ台）、小林副会長（忠生中央）、大谷委員（団師）、佐藤委員（桜美林台）、藤田委員（下小山田）、森委員（上小山田）、桐沢委員（忠生四丁目）、川畑委員（忠生忠靈地区）、福岡委員（忠生自然）、守屋委員（根岸）、甲野藤委員（清住平）、酒井委員（矢部町）、佐藤委員（常盤）、林委員（馬駆）
専門委員：荒井委員、片谷委員
- 欠席 2名（代理出席 なし）
- 事務局 : 岩岡環境資源部長、平本循環型施設担当部長
循環型施設管理課 : 平川課長、田中担当課長、黛係長、黒須担当係長、石川主任、小松主任、阿曾主事
ごみ収集課 : 山岡課長
環境政策課 : 岸担当課長
運営事業者 : 町田ハイトラスト株式会社
コンサルタント : 株式会社日建設計
- 傍聴者 0名
- 配布資料
次第
 - 町田市バイオエネルギーセンターの運転状況について 【資料1】
 - 12月に搬入件数が増える状況について 【資料1-2】
 - バイオガス化施設前処理設備火災復旧工事について 【資料2】
 - 不燃ごみピットで発生した火災（7月13日）について 【資料3】
 - 火災による応援ごみ・費用と火災復旧費用について 【資料4】
 - 資源ごみの暫定処理について 【資料5】
 - 消防訓練の実施について 【資料6】
 - 夏休み子どもイベントの報告（7月23～25日） 【資料7】
 - 夏休みイベントのお知らせ 3Rまなびフェスタ 夏 【資料8】
 - 煙突のぼりイベントについて（10月10,11日） 【資料9】
 - 大賀ぐうし館ベニバナ畠の移転について 【資料10】

委員紹介

交代した新委員を紹介した。

1 開 会

○開会挨拶

岩岡環境資源部長より、開会のあいさつを行った。

2 議 題

(1) 町田市バイオエネルギーセンターの運転状況について（2025年1月～6月）

事務局より、資料1を用い、町田市バイオエネルギーセンター運営協議会の所掌事項である排ガスの測定結果など、運転状況について報告した。

(以下、主な質疑応答)

森委員 臭気測定結果が4地点すべて10未満となっていますが、それぞれの数値を示すことはできないのでしょうか。

事務局
(黒須担当係長) 臭気指数は機器で測定するのではなく、臭気判定士（国家資格）が臭いの有無を感覚で判定する官能試験で行います。臭気指数の規制基準の最小値は、臭気指数10です。臭気指数10は人間の嗅覚でほとんど感じないレベルであり、それよりも弱い臭いは10未満と表現しています。

川畑委員 p.5の表2ガス発電機排ガス測定結果の窒素酸化物最大濃度はすべて4号機となっています。その理由を説明してください。

事務局
(島尻所長) 4～6月はバイオガス化施設の試運転期間中であり、バイオガス量が少ないため、4号機のみが運転していたためです。

守屋委員 p.1のバイオガス化施設の試運転期間中（3/3～7/3）の処理実績は処理能力（25t/日）に比べて小さい時期もあります。試運転の運転状況を説明してください。

事務局
(黒須担当係長) 3月以降、徐々に処理量（ごみの投入量）を増やしながら試運転を行っており、6月には概ね処理能力と同程度の処理が可能であることを確認しました。その後、7月以降は本稼働として処理能力で運転しています。

高橋会長 p.3の排ガス測定結果の青色棒グラフはどのような値を表記しているのですか。

事務局 (黒須担当係長) p.3 の排ガス測定結果のグラフは、法規制値（赤色実線）、自主規制値（赤色破線）に合わせて、2か月ごとに分析機関が煙突から排ガスを採取して公定法により計測した結果を青色棒グラフでしています。また、自動測定機器による24時間連続測定した結果の各月最大値をp.5に示しています。

高橋会長 運営協議会の趣旨からは、法律にもとづいて東京都に報告するp.3の結果より、p.5の連続測定の結果の方が安心の視点から重要と考えられる。

荒井専門委員 この施設は法律の規制対象となっているので法規制値を遵守していることが求められますが、会長のご指摘とおり、地域住民にとって、最大濃度が自主規制値を超過していないことがより重要ということであれば、説明を工夫すれば良いと思います。

川畠委員 p.5の自動測定機器での窒素酸化物の最大値は約25ppmですが、p.3の公定法測定では約15ppmで、10ppm程度の差異が生じている理由を説明してください。

事務局 (島尻所長) 排ガス濃度の変動幅によるものであり、排ガス採取時の測定値と連続測定による最大値にはこの程度の増減があります。

佐藤委員 5月8日に臭気測定を実施されていますが、臭気測定の年間測定回数、時間帯を説明してください。

事務局 (黒須担当係長) 年2回実施しています。
(島尻所長) 昼間の時間帯に測定しています。

事務局より、資料1-2を用い、12月に搬入件数が増える状況について報告した。
(以下、主な質疑応答)

大谷委員 最寄りの家電リサイクル法の指定引取場所は相模原市や八王子市になり、町田市内にはない経緯等があれば教えてください。

事務局 (岸担当課長) 家電4品目の処分・リサイクルは製造業者、小売業者、排出者がそれぞれ義務・責務を担っていますが、指定引取場所は広い土地、交通の便などを考慮して決められていると考えられます。

(2) バイオガス化施設前処理設備火災復旧工事について

事務局より、資料2を用い、バイオガス化施設で発生した火災の復旧工事について説明した。
(以下、主な質疑応答)

高橋会長 二酸化炭素 CO₂ではなく、一酸化炭素 CO を検知する理由を説明してください。

事務局 (島尻所長) 火災では酸素が不足することが多く不完全燃焼が起こり、その結果、一酸化炭素の濃度が高くなるためです。

守屋委員 リチウムイオン電池が原因で火災が発生したということで、破碎装置などの現状復旧と CO 分析計など火災が拡がらない改良更新を行ったとのことです、火災が発生しないような予防的措置は検討されたのでしょうか。

事務局 (島尻所長) 不燃ごみについてはリチウムイオン電池などを事前に検知する装置の検討をしています。

事務局 (平川課長) リチウムイオン電池は衝撃を受けて発火するという性状であるため処理前に選別するのが理想ですが、現実的にはすべて取り除くのは困難であるという状況と考えています。そのため、万一、発火しても散水などで火災につながらないような対策を行うことになります。
これまで 3 件の火災が発生しましたが、できる限り収集段階でリチウムイオン電池を取り除くことから始めて、ソフト・ハード面のできうる対応を進めているという状況です。

事務局 (山岡課長) 様々な製品にリチウムイオン電池が入っており、ごみ収集の現場でも収集袋から取り除く量も増えています。
町田市では有害ごみの日に分別して出すことになっていますが、燃やせないごみに入っていることもかなり多いので、中央図書館で PR したり、ごみカレンダーで出し方を紹介したりしています。
今後もより一層の広報が必要と考えていますので、皆様からのアイデアをいただきながら紹介していきたいと思います。

小林副会長 まだ、市民の分別が徹底されていない状況かと思われる所以、チラシ全戸配布などの方法も講じていただきたいと思います。

佐藤委員 2026 年 4 月から、メーカーなどに、リチウムイオン電池内臓製品の回収とリサイクルを法的に義務付ける制度が導入されると聞いていますので、そのお知らせを町田市から行うのも良いと思います。

福岡委員 リチウムイオン電池の問題は町田市だけではなく、日本全国の問題であるので、作る事業者側の責任を、国が徹底的に求めてほしいと思います。町田市は新たに回収方法を作るなどして、とても頑張っていると思います。運営協議会委員としては、こんなにやっているのに何でわからないの?と言いたくなるくらいです。

川畑委員 火災復旧に要した費用を説明してください。
また、分別啓発には、ごみ袋に印刷するのが有効であると思います。

事務局 3 件の火災復旧費用は、町田市の 9 月議会で計上させていただくことになっており、安全対策を含めて総額 14 億 3,000 万円となっており、資料 4 で説明いたします。

事務局 燃やせるごみ袋（黄色）、燃やせないごみ袋（緑色）には、リチウムイオン電池等を「入れないで！」と印刷したデザインに変更していますが、さらに周知を進めていきたいと考えています。

片谷専門委員 分別の徹底を進める上では、わかっていてもやらないのはたいてい大人であり、大人よりも小・中学生の年代の方が教育効果は高いと言われているので、そのような方向で進めるのが有効ではないかと思います。

事務局 3R 推進係では、市内小学 4 年生を対象に、ごみ減量、分別についての出前講座を行っており、今後も継続していきたいと考えています。

酒井委員 資料 2 のバイオガス化施設前処理設備の火災の原因は燃やせるごみに混入していたリチウムイオン電池が原因と考えているが、資料 3 の火災の情報とは関係しているのですか。

事務局 資料 3 は 2025 年 7 月 13 日（日）に発生した不燃ごみピットでの火災であり、バイオガス化施設での火災とは別の火災です。

（3）不燃ごみピットで発生した火災（7 月 13 日）について

事務局より、資料 3 を用い、不燃ごみピットで発生した火災について説明した。
(以下、主な質疑応答)

高橋会長 7 月の不燃ごみピットの火災よりもバイオガス化施設の火災の復旧の方が大きな被害を受けているが、不燃ごみについてもリチウムイオン電池の検知など対策設備を検討していると思うので、連絡事項の中で説明してください。

3 町田市からのおしらせ・事務局からの連絡事項

（1）火災による応援ごみ・費用と火災復旧費用について

事務局より、資料 4 を用い、応援ごみ、復旧費用について説明した。
(質疑応答 なし)

(2) 焼却炉設備の不具合について

事務局より、2025年3～5月に発生したボイラ水管の穴あき等による停止、復旧・補修状況、原因と再発防止策、多摩ニュータウン環境組合での応援処理（4月14日～9月5日）について説明した。

（質疑応答 なし）

(3) 資源ごみの暫定処理について

事務局より、資料5を用い、ビン・カン等、資源ごみの暫定処理について説明した。

（質疑応答 なし）

高橋会長 現在、ビン・カン選別施設は停止しているですか。

事務局 まだ運転中で、2025年度末（2026年3月末）まで操業します。
(岸担当課長)

(4) 石川県災害被災地からの災害廃棄物の受入れ中止について

事務局より、東京都内での災害廃棄物の広域処理が9月末で終了することになり、10月から受入れを予定していた町田市での処理は中止することになったことについて説明した。

（以下、主な質疑応答）

片谷専門委員 私は石川県の災害被災地を何度も訪れています。廃棄物処理が順調に進んでいるというのは確かにその通りですが、人口の少ない地域であり、災害廃棄物の発生量が少なかったため処理が順調に進んだという状況であったと感じています。

(5) 消防訓練の実施について

事務局より、資料6を用い、消防訓練（6月18日）の実施結果について報告した。

（以下、主な質疑応答）

高橋会長 見学している小学生やリサイクルショップの来客者などの外部の人に対して、館内放送などの情報伝達はどのように行うのですか。

事務局 全館放送により各階ごとに初期消火、避難することとしています。
(小松主任)

(6) リチウムイオン電池検知実証試験の予定

事務局より、リチウムイオン電池検知実証実験の予定、実験結果は次回説明することを説明した。

(質疑応答 なし)

(7) 夏休み子どもイベントの報告（7月 23～25 日）

事務局より、資料 7 を用い、夏休み子どもイベントについて報告した。

(以下、主な質疑応答)

大谷委員 対象は小学生以上ですか。

事務局 小学生と記載していますが、未就学児も参加していただいている。
(狩野担当係長)

(8) 夏休みイベントのお知らせ 3R まなびフェスタ 夏

事務局より、資料 8 を用い、夏休みイベントについて説明した。

(以下、主な質疑応答)

川畠委員 花火や気球を上げるなど集客が期待できる内容を検討していただければと思います。

事務局 のぼり旗を立てたり、風船アーチを置いたり、イベント感を高めて開催しますので、よろしくお願ひいたします。
(島尻所長)

(9) 煙突のぼりイベントについて（10月 10、11 日）

事務局より、資料 9 を用い、煙突のぼりイベントについて説明した。

(以下、主な質疑応答)

守屋委員 イベント開催中はごみ処理に差し支えないのですか。また、一般市民向けに煙突を展望台として案内するような考えはありますか。

事務局 煙突から排ガスを放出している稼働中の状態の時に案内するのは難しいと考えていましたが、定期修繕中で施設が停止している状況であれば案内することも可能と考えて開催します。
(田中担当課長)

煙突からの眺望については、見学者通路の煙突を紹介するブースに昼間と夕暮れ時に撮影した映像を流しています。

高橋会長 面白いイベントだと思いますが、PR 方法が重要と考えられますので、工夫していただければと思います。

(10) 大賀ぐうし館ベニバナ畠の移転について

事務局より、大賀ぐうし館ベニバナ畠の移転について説明した。

(質疑応答 なし)

(11) その他

第8回運営協議会の議事録は、委員の確認が得られたので、ホームページに掲載していることを報告した。

次回の運営協議会の開催予定として、2026年2月頃であることを伝えた。

4 閉 会

平本担当部長より、閉会のあいさつを行った。